

アフリカにあるもう二つの林木種子センター

浅川 澄彦

前号でケニアの林業種子センターについてご紹介したが、本号では、前回の冒頭に併記したアフリカにある他の二つの林木種子センターについて、ごく簡単にご紹介したい。ユフロの P 2.04-00 種子問題プロジェクト副リーダーである S.K. KAMRA 博士の好意で入手した資料によるものであるが、もっと詳しいことをご存じの方がおられたら是非補足して頂きたいと思います。

1. ジンバブエの地域林木種子センター

ジンバブエの首都ハラレにあり、同国の Forest Research Centre の所管であることは確からしいが、同じ場所にあるのかどうかは確かでない。ともあれ、カナダの IDRC がこの地域における林木種子センター創設を援助する用意があるという意向をうけて、1984年1月に東・南アフリカ諸国 (Angola, Botswana, Kenya, Lesotho, Malagasy, Malawi, Mozambique, Rwanda, Swaziland, Tanzania, Uganda, Zambia, Zimbabwe) の代表がハラレに集まり、この件についての討議を行うワークショップが開催された。IDRC は、その援助プロジェクトの検討にあたって、プロジェクト開始に必要な基本的インフラが既存すること、スタッフが、開始されようとしているプログラムに若干の期間従事した経験をもつことの2点を要件としているらしいが、当時のジンバブエ林野庁 (Forestry Commission) 所管の種子センターがこれらの要件を満たしており、参加各国の代表も満場一致で賛成したため、結局このセンターが母体となって地域林木種子センターが創設されることとなったようである。

ジンバブエ林野庁は試験植栽とくに外来樹種の導入に早くから力をいれていたようで、オーストラリア CSIRO の森林研究部とくにその Tree Seed Centre とは20年以上 (1987年当時) も密接な連絡をとっており、130種を越える広範な樹種群を試験的に導入してきたとされている。またこの間1982~'84年には、育種計画に資するために4回にわたって種子採取チームをオーストラリアに派遣している。

この地域林木種子センターは、上記のような東・南アフリカの諸国にたいして、研究用・事業植栽用の優良種子を供給することを目的としている。MULLIN, L.J. & B.R.T. SEWARD による Timber plantations and seed supplies in Zimbabwe

ASAKAWA, Sumihiko : Two Other Tree Seed Centres in Africa
玉川大学農学部

(1984?)を見ると、マツ類には *P. elliottii*, *P. kesiya*, *P. oocarpa*, *P. patula*, *P. taeda* が含まれており、ユーカー類には量の多い順に、*E. grandis*, *E. cloeziana*, *E. citriodora*, *E. tereticornis* など 17 種が挙げられている。その他の樹種の中で目立って多いのは *Acacia mearnsii* で、それに次ぐのは *Jacaranda mimosifolia* である。

創設に先立って開かれた上述のワークショップで討議し、了承されたこのセンターの目的のうち、上記以外の主要なものを前掲の報告から拾うと、種子源にできる地域内の林分の調査・登録、種子の調達・調製・貯蔵・検査・保証・配布（シードバンク機能）、遺伝子保全林の造成・管理、研修コースの運営、樹種スクリーニング・産地試験とそれらの関連情報の提供、関係国における主要樹種の採種園造成の援助などである。またこの報告には初年度の事業計画も述べられているが、シードバンクとしての施設を充実するための資料として、各国は2年間の予想所要種子量を提供することや、地域内の採種林の調査・登録に向けては、各国は種子源のリストを提供することなどを提案している。おもしろいのは、センターそのものの創設には IDRC の援助を受けることにしながら、このような事業を進めるためには ACIAR (Australian Centre for International Agricultural Research) および CSIRO の援助を求めることを提案し、報告にも明記していることである。それまでの長い CSIRO との協力関係、オーストラリア産の多数の樹種を導入しようとしていることから考えればまったく妥当なことであるが、これからの国際協力推進にあたって示唆にとむものである。なお、1987年8月末から9月初めにかけて、“Forest seed problems in Africa”と題するユフロ P 2.04-00 のシンポジウムがこのセンターで開催されている。



(所在) Regional Forest Seed Centre, Forest Research Centre
P.O. Box HG 595, Highlands, Harare, ZIMBABWE

2. ブルキナ・ファソの林木種子センター

ブルキナ・ファソ（旧国名オートボルタ）の首都ワガドゥグにあるこのセンターは 1983 年にできたもので、この種のものとしては西アフリカで最初のものらしい。アフリカの中央部、北緯 15° の線を中心とした大西洋から紅海に及ぶサバンナ地帯いわゆるサヘル・スーダン地域 (Sahel and Soudanian Zone) における造林のために優良な種子を供給することを目的につくられたものである。入手した 1987~'88 年のカタログの扉に仏・英 2 か国語で書かれているところによると、このセンターは事

業用に配布する種子の遺伝的な質を高めるとともに、生理的な研究、取扱い方についての研究、および種子の保全をも行うことになっている。

主要な成果の冒頭に挙げられているのは採取量および配布量で、1984年2月の最初の採取以来3年間の総計は、採取量：12,930 kg、配布量：5,660 kg となっている。1984～'85年には *Acacia albida*, *Parkia biglobosa*, *Leucaena leucocephala* について、前2者は国内産地からの種子だけで、それぞれ産地試験を開始した。また *Bauhinia rufescens*, *Prosopis juliflora*, *Acacia nilotica* (2変種), *A. raddiana*, *Parkia biglobosa*, *Ziziphus mauritiana*, *Jatropha curcas*, *Parkinsonia aculeata*, *Gmelina arborea*, *Azadirachta indica* などの採種林、*Eucalyptus camaldulensis* の採種園がそれぞれ設定または造成されている。

注文の仕方は、国内でも国外でも基本的には同じで、注文用のフォームに必要事項を書き入れるとともに、生産したい苗木本数とまきつけ時期を明記して申し込むと、当該種子の純度と発芽率に応じて、期待する苗木本数の2倍生産できるような数量が送られてくる仕組みらしい。国外からの注文にあたっては、包装や税関手続き、連絡手数料などのために8,000 CFAフラン（同国の通貨）が余分に必要で、総計費の0.4%を払えば、送付中の損害も補償されると付記されている。在庫リストを見ると、原産の樹種はもちろん、乾燥地・半乾燥地向けの主要な樹種が轡を揃えているが、筆者の入手したカタログには価格は入っていない。関心のある方は直接下記にご連絡下さい。

(宛先) Centre National de Semences Forestières (略称：CNSF)

(英名：National Forest Tree Seed Centre)

P.O. Box 2682, Ouagadougou, BURKINA FASO

(あとがき) No. 13 (1988.9) からシリーズで取り上げてきた林木種子センターの紹介は、この小文をもって一応終了します。今回の2センターについては不十分な情報しか取れませんでした。もしも詳細な情報が寄せられましたら改めてご紹介したいと思います。なお PNG にも Seed Centre があるという情報がありますが、これまでのところ国レベルのものようです。 (編集委員会)